

第6回 東京大学 環境三四郎 (第25号)

環境三四郎は1993年に創立したサークルで、環境に関するゼミのメンバーが中心となり、最初は勉強会や環境の世紀という名前の講義の企画、運営、キャンパスエコロジー活動を行っていました。その後、メンバーの興味・関心に沿って様々な活動を行う中で、99年に「割り箸から見た環境問題」という報告書の作成や、04年に「環境の世紀」の講義録を本として出版、同年に東京大学の総長賞を受賞するなどして現在に至っています。

環境三四郎の特徴は、スローガン「学習と行動、批判ではなく提案、交流そして成長」に集約されています。幅広い学習や綿密な調査、それらに基づいた単なる批判に終わらないような提案、そして環境三四郎内の興味関心や世代、はたまた団体を超えた交流。それらが環境三四郎の強みであり、特徴です。現在メンバーは活動の中心である1、2年生が合わせて30名程度、総メンバー数は200名程度となっています。

現在、環境三四郎では、プロジェクト制の下で、曜日単位で行う定期的活動と不定期的活動があり、メンバーが自分の興味・都合に合わせて自由に参加できるような形をとっています。プロジェクトは全部で8つあるのですが、ここではそのうち5つを紹介します。

「CCC」は、もともとアメリカで始まった、大学のキャンパス内にクリーンエネルギーを導入しようという活動で、正式名称を Campus Climate Challenge と言います。このプロジェクトではクリーンエネルギーを導入するための勉強会や、導入済みの大学・学内の教員の研究室の見学などを行い、実際に東大で導入するためのモデルを考えています。

「駒場調査組」は、駒場キャンパス内のごみ箱のごみ組成調査を通年で行いながら、そのデータをもとに、キャンパス内のごみ問題の現状の把握と解決策の検討・実践を進めているプロジェクトです。

「環境の世紀」は、唯一サークル設立当初から続いているプロジェクトで、駒場キャンパスで開催される正式な講義の企画、運営を行うものです。現在は「容器包装リサイクル法」を軸にした講義の設計を行っています。

「堆肥化プロジェクト」は、毎年キャンパス内で大量に出て可燃処理されてしまう落ち葉を堆肥化しようというプロジェクトで、今年の夏頃の完成を目指し、月に2回程度、実際に切り返しという作業をしたり、勉強会を開いたりしています。

「KORABOKS」は、コカ・コーラシステムとの産学連携プロジェクトで、大手回収ボックスメーカー「アートファクトリー 玄(株)」の協力を得て、自動販売機横の缶やペットボトルの回収ボックスの分別率の改善を目指しています。実際に繁華街の回収ボックスのデザインを変えたりして、どの程度分別率が改善したかの調査・分析も行っています。

活動は上記のように多岐にわたっています。最近では、(株)ローソン(割り箸関係)や日本コカ・コーラ(株)との産学連携のように活動の幅が広がっており、より大きな規模で環境問題に取り組んでいけるようになるのではないかと期待しています。